

対象学年: 第2学年以上  
領域・単元等 「天気とその変化」

1. 作成の趣旨

気象データをもとに、雲海(雲)が起こる条件について探究する中で、実験後にその方法の修正を図り、気象に関する規則性や関係性を見いだして表現することをねらいとして本問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

- 霧や雲の発生について観察, 実験を行い, そのでき方を気圧, 気温, 及び湿度の変化と関連付けて理解すること。2年第2分野(4)イ[知識及び技能](ア)
- 気象とその変化について, 見通しをもって解決する方法を立案して観察, 実験などを行い, その結果を分析して解釈し, 天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。2年第2分野(4)イ[思考力, 判断力, 表現力等]

2. 活用場面等(例)

例1【単元末の定着確認や定期考査の問題として】

〈啓林館、東京書籍、大日本図書 第2学年12月、3月頃〉

⇒活用後について

基本的な語句や天気図の読み取りの定着が不十分な場合は、気象要素の種類とその表し方や等圧線と風の向きの関係など、図を使って表現したり読み取ったりすることができるように振り返りをしましょう。

例2【学期末、学年末の定着確認の問題として】

〈啓林館、東京書籍、大日本図書 第2学年12月、3月頃〉

⇒活用後について

定着が不十分な場合は、複数の気象データを比較して規則性を見いだしたり、飽和水蒸気量のグラフを読み取ったりする場を繰り返し設けましょう。

3. 「天気とその変化」の授業の充実に向けて

○実際の現象について、様々なデータから、仮説を見いだす場面を設けましょう。



雲海が晴れたのはなぜだろう。様々な気象データにヒントがあるのではないかな。

雲海が晴れる現象には、何の関係しているのかな。  
雲海が晴れたとき、気象データの中で変化が大きいものは何だろうか。



時間 (時)	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	14:30	15:30
気温 (°C)	19.0	20.0	23.5	24.0	25.8	26.0	26.0	25.9
気圧 (hPa)	1023.5	1023.0	1022.9	1022.1	1021.7	1020.8	1020.2	1019.6
湿度 (%)	50.0	45.1	39.9	39.8	35.0	34.3	30.0	34.9
雲海の様子	雲海あり	雲海あり	雲海なし	雲海なし	雲海なし	雲海なし	雲海なし	雲海なし

気温が上がると、雲海が晴れているよ。気温と雲海の晴れ方に関係があるのではないかな。



○実験の結果から考察する活動で、仮説や実験方法の妥当性を振り返り、検討したり改善したりする場面を設けましょう。